

19年06月世界市場サマリー

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ
代表 伊藤 武

5月の初旬トランプ大統領は差し迫った対中国貿易合意寸前にそれを否定し、世界市場は意表を突かれ、急落しました。しかしその後は反騰に転じ6月には再び高値圏に回復しています。ダウ工業株平均が25000ドルを回復し、上昇に転じた時点で市場に対する警戒感を述べました。警戒感の根拠として今回は米中の単なる貿易対立に止まらず、知的財産権の軋轢や、中国による南シナ海での軍事行動等、米中の覇権争いの様相が生じています。それに関連し、トランプ大統領は対イラン制裁を強化し、一触即発事態にも展開しています。ところが、世界市場は気には掛けていながらも、目をつぶって相場の更なる上昇を求めています。強気相場の根拠は、リーマンショック以来、世界は異次元金融緩和策を講じ、金融緩和の効果が薄れると財政政策も積極化に転じ、経済政策の従来規程が全く存在しない環境に転じているからです。それを可能にしているのは、物価の安定でインフレ懸念が欠如している状況です。米連銀FRBは、2018年には金融の正常化を求め、政策金利はゼロ近辺から2.25~2.5%に引き上げました。ところが、景気が減速基調に転ずるや、再び政策金利の引き下げはほぼ確実に実施される様相です。そしてトランプ大統領は2期目も出馬表明を発表し、大統領選の勝利を確実にするには、一にも二にも景気の上昇を維持することです。その結果、米国経済は未曾有の繁栄をもたらしています。7月には米国史上1854年来の長期経済循環を達成、インフレはFRB目標の2%より下回り、金利は80年来の低金利となり、主要株価指数のS&Pは90年の歴史で最も長期となるブルマーケットを実現しています。今や世界は12兆ドルに達する負債がマイナス金利で推移し、史上最大の債務を抱えながらも、お金の行き場がなく、株式、不動産やその他の金融資産に向けられています。米国株の株価収益率PERは過去35年間の平均15.1倍に対し、現在は2019年予想に対し17.8倍となり、割高感はありません。でもゼロ方向に収束する金利状況では株の魅力は薄れません。米国10年国債は予想とは全く逆方向の2%を割るに至っています。周知の通り、日本やドイツではマイナス金利が長らくはびこっています。このように、世界経済は不安定ながらも、緩やかな成長を堅持し、インフレは鞘に収まり、資金の流動性は高まる一方です。投資に対する姿勢はある程度警戒感を高め、安定的な利回り資産を重んじ、下げ相場に対応できるポートフォリオを構築すべきでしょう。先月には基本的に現金比率を20%程度まで引き上げることをお勧めしました。そのような行動は功を奏していませんが、上昇基調の恩恵を十分に受けることが出来、且つ下げのショックに対応できると考えます。金価格が昨年来の高値を更新しています。過去においてはイン

フレヘッジとしての役割を重んじていましたが、今は金利低下が金の相対的魅力を高める効果が期待されています。しかしその根底には有事に対するヘッジとして金を買われているのではないかと観測しています。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。